

# 古

くからの友人が、どうも最近体の調子が良くないというので、湯治にでも行ってみようかという話になった。冗談半分のつもりだったが、友人はわりと

本気で、数日後には、ここはどうだろうか？ と連絡がきた。提案されたのは、鳥取県の三朝温泉。「三つの朝」と書いて、

「みさき」と読むらしい。なんでもこの湯に浸かって三日目の朝を迎えれば、どんな病気でも治るという触れ込みの温泉地で、お湯は国内有数のラドン温泉、浸かって良し、飲んで良し、(蒸気を)吸って良し、これらからは高いホルミシス効果が得られるという。ちなみにホルミシス効果をきつくりと説明すれば、新陳代謝がすこぶる良くなるといった感じだろうか。

友人からの説明を受け、俄然行きたくなくなってきた。早速、休みを合わせ、短い湯治旅行に旅立った。

鳥取空蕨から荒々しい日本海を眺めながら、一時間ほどバスに揺られていくと、古き良きという形容がびつたりの温泉町に到着する。町を横切る三朝川を挟むように、近代的なホテルが建ち、入り組んだ路地には昔ながらの温泉宿が軒を並べる。バスから降り立った瞬間に、ここはいいお湯に違いないと嬉しくなってくる。

予約していたのは狭い路地にある老舗旅館だった。造りが古いで鴨居に頭をぶつけそうになったり、実際に洗面台の棚に何度もぶつかりしたが、客室の窓からは三朝川の流れが一望でき、窓際の椅子から眺めれば清々とした気持ちになれた。

早速、湯に浸かる。熱く、とろっとしたお湯で、ひとかけ目から、いい予感がする。実際、夕食までの時間があまりなかったで、さっと浴びた程度だったが、たっぷりと汗が出

# 冒険の

文= 吉田修一

text: Shuji Yoshida

監= 井筒啓之

illustrations: Hiroyuki Iizuka

第33回 ミササオンセン、トットリ